

日高 PO1 の結果概要 地区名：HS1 浦河 3007 林班い 2 小班 9 月 8 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	斜面下部	北	1	2	直近 5.5	累積 4.4	シカ道・骨
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	57 /200 m ²	60.4 m ² /ha	25 /200 m ²	食痕: 0/25 0%	9 /200 m ²	0/56 0%(0%)	
	50 /200 m ²	62.1 m ² /ha	18 /200 m ²	食痕: 6/18 33%	6 /200 m ²	9/49 18%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	2 /200 m ²	0/2 0%			35	0%・12.0・0%	0.21・0.21 (37.8)・0.01
	1 /200 m ²	1/1 100%			36	1%・21.0・0%	0.23・0.22 (17.0)・0.01

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
シウリザクラ	9	2,329		2
カツラ	7	2,166	1	
ヤチダモ	2	2,006		
シナノキ	5	1,808	3	
ミツデカエデ	7	1,504	3	
全体	50	12,420	18	14

※総BAは胸高直径断面積の総和。



稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
シナノキ	1	1
全体	1	1

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ジュウモンジシダ	12	0.111	25	37.5	0
イッポンワラビ	13	0.069	20	30.7	0
フッキソウ	6	0.019	8	19.8	0
オシダ	5	0.013	3	25.8	1
スゲsp.(A)	5	0.006	5	11.2	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P01 は、浦河町春別川上流の林道沿いに位置する広葉樹林である。段丘斜面下の平坦地で、シウリザクラやカツラなどの湿性の広葉樹が多く見られる林分である。林内にはシカ道が見られる。前回から本数密度は 57 本から 50 本に減少し、下枝密度も 25 本から 18 本に減少した。樹皮剥ぎは前回見られなかったが、今回は 18%の樹木で確認され、特に嗜好性の高いアオダモは全て樹皮剥ぎされ、枯死していた。

稚樹はシナノキ 1 本のみと前回同様に低密度だったが、食痕が確認された。林床は湿潤な環境で、ササを欠いており、ジュウモンジシダやイッポンワラビなどのシダ植物が目立つ。優占種に大きな変

化はなく、全体の現存量・可食種の現存量も大きな変化はなかった。

前回よりも、下枝の被食や樹皮剥ぎが増加していることから、エゾシカによる影響は増加しており、影響が累積している状況と思われる。

日高 P02 の結果概要

地区名：HS1 浦河

3059 林班い 2 小班

9 月 8 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	尾根	南東	1	2	直近 14.5	累積 5.0	シカ道
毎木	毎木調査－主な樹種						樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)
	種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)	100%未満	
	トドマツ	74.5 m ² /ha	21 / 200 m ²	8	2	33%	1 / 41 2%(0%)
稚樹	ミズナラ	2	2,080				12 / 38 32%(7.9%)
	サワシバ	11	1,179	6			
	オオバボダイジュ	2	979				
全体	イチイ	1	618				
	ササ被度・高さ・食痕率						現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	ササ被度・高さ・食痕率						0.07・0.06 (15.4)・0.00
全体	イチイ	1 / 1 100%	618	28			0.09・0.04 (0.9)・0.05
	ササ被度・高さ・食痕率						
	ササ被度・高さ・食痕率						

※ 数値の上段は 2009 年調査結果、稚樹は胸高 30cm 以下のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種／可食種の比率。
※総BAは胸高直径断面積の総和。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
トドマツ	17	8,526	2	2
ミズナラ	2	2,080		
サワシバ	11	1,179	6	
オオバボダイジュ	2	979		
イチイ	1	618		1
全体	55	14,894	21	14

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
トドマツ	4	
サワシバ	1	1
全体	5	1

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
スゲsp.(A)	19	0.043	27	14.9	0
オシダ	7	0.025	5	29.9	0
ミヤマイトチンダ	8	0.007	3	17.4	0
ミヤコザサ	6	0.006	3	20.0	0
ヒトリシズカ	2	0.005	2	15.5	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P02 は、浦河町春別川上流の林道沿いに位置する針広混交林である。尾根沿いの急斜面で、針葉樹はトドマツで、広葉樹はミズナラやサワシバが多く見られる。林内にはシカ道が見られる。前回から本数密度は 59 本から 55 本、下枝密度は 24 本から 21 本へとやや減少したが大きな変化は見られない。樹皮剥ぎは前回 1 本のみだったが、今回は 32% (新規 7.9%) の樹木で確認された。アオダモは 6 本全て樹皮剥ぎされていたが、枯死はしていなかった。

稚樹では広葉樹は 1 本のみと前回 (2 本) と同様に密度が低かったが、食痕は確認された。林床は、急斜面で土壌が薄く、スゲ類が目立つ。ミヤコザサは 3% と少なく前回と大きな変化はなかった。可食種の現存量は 0.01 未満から 0.05 と増加した。

直近の SPUE は 14.5 と非常に高く、また下枝の被食や樹皮剥ぎが増加していることから、エゾシカによる影響は増加しており、影響が累積している状況と思われる。

日高 P04 の結果概要

地区名：HS1 浦河 3070 林班い 1 小班 9 月 9 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面下部	北西	1	2	直近 8.2	累積 3.8	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	32 /200 m ²	40.9 m ² /ha	23 /200 m ²	食痕: 0/23	0%	8 /200 m ²	0/32	0%(0%)
	25 /200 m ²	38.9 m ² /ha	14 /200 m ²	食痕: 5/14	36%	5 /200 m ²	1/25	4%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	1 /200 m ²	1/1	100%		38	32% ・43.7・ 33%	0.25 ・0.09 (24.4)・ 0.00	
	0 /200 m ²	0/0			27	48% ・46.8・ 94%	0.33 ・0.09 (11.2)・ 0.01	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
イタヤカエデ	5	3,530	2	
シナノキ	3	1,077	1	
オオバボダイジュ	3	988	1	
キタコブシ	2	736	1	
アオダモ	1	548	1	1
全体	25	7,784	14	2

※総BAは胸高直径断面面積の総和。



林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	16	0.232	48	46.8	15
フッキソウ	15	0.063	24	23.6	0
ジュウモンジシダ	4	0.017	6	29.3	0
オシダ	5	0.009	3	13.6	0
ハナタデ	4	0.004	2	16.3	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
稚樹なし		

調査区 P04 は、元浦川上流の小さな沢沿いにある広葉樹林で、オオバボダイジュやイタヤカエデが優占する。林内の沢沿いにはシカ道が見られる。前回から本数密度は 32 本から 25 本、下枝密度は 23 本から 14 本と減少した。下枝食痕は前回確認されなかったが、今回は 36% だった。樹皮剥ぎも前回確認されなかったが、今回、生存木では 1 本のみ確認された。また、枯死木でオヒョウの樹皮はぎが確認された。

稚樹は前回 1 本のみだったが、今回は消失した。林床はミヤコザサが 32% から 48% に増加し、ササの食痕率も 94% と増加した。可食種の現存量は 0.01 と前回同様に少なかった。

枯死木はアオダモやオヒョウなどエゾシカの嗜好性の高い樹種が多いことから、枯死の主な原因はエゾシカによる被食が推測された。SPUE も 8.2 と高く、エゾシカによる影響は増加して、累積して

いる状況と思われる。

日高 P05 の結果概要 地区名：HS1 浦河 3162 林班い小班 9 月 9 日調査実施

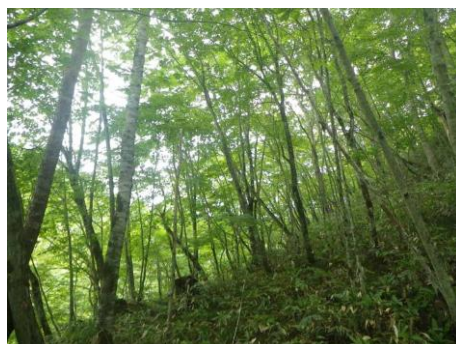
林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面中部	北	1	2	直近 5.1	累積 2.3	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	71 /200 m ²	37.2 m ² /ha	35 /200 m ² 食痕:27/35 77%			30/200 m ²	1/66 2%(0%)	
	57 /200 m ²	38.8 m ² /ha	29 /200 m ² 食痕:10/29 34%			19/200 m ²	7/54 13%(7.4%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	19 /200 m ²	17/19 89%			26	54%・82.8・75%	0.54・0.08 (25.4) ・0.00	
	6 /200 m ²	2/6 33%			22	48%・86.2・90%	0.53・0.02 (0.2) ・0.08	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ヤマモミジ	14	2,208	4	
サワシバ	20	1,748	10	
イタヤカエデ	1	1,116		
アサダ	1	767		
トドマツ	2	726	1	
全体	57	7,751	29	9

※総BAは胸高直径断面面積の総和。



林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.440	48	86.2	18
スゲsp.(A)	10	0.047	18	25.5	0
スゲsp.(B)	14	0.029	13	22.1	0
ミヤマイトチシダ	8	0.007	3	23.1	0
オンダ	4	0.004	2	24.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
アオダモ	5	5
トドマツ	3	
シナノキ	1	1
全体	9	6

調査区 P05 は、三石ダム上流部の林道沿いに位置する広葉樹林である。緩斜面でヤマモミジとサワシバが優占する。林内にはシカ道が見られる。前回から本数密度は 71 本から 56 本、下枝密度は 35 本から 29 本へと減少し、下枝食痕率も 77%から 34%へ低下した。小径木 5cm 未満の密度も 30 本から 19 本へと減少した。樹皮剥ぎは前回 1 本のみだったが、今回は 7 本の樹木で確認され、樹皮剥ぎされた多くはアオダモだった。

稚樹は前回の 19 本から 6 本まで減少し、食痕率も 89%から 33%へと減少したが、古い食痕を含めると全ての稚樹に食痕が見られた。林床はクマイザサが 48%で前回からやや減少した。可食種の現存量は前回の 0.01 未満から 0.08 へと増加した。

立木密度が比較的高く、密度効果による枯死も生じていると思われるが、被食状況から、稚樹や小径木の枯死の原因は被食の影響も含まれており、生存木が減少し影響が累積している状況と思われる。

日高 P06 の結果概要

地区名：HS1 浦河

3166 林班ほ小班

9 月 9 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面中部	北西	1	2	直近 5.1	累積 2.3	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	67 /200 m ²	21.2 m ² /ha	24 /200 m ² 食痕:0/24 0%			34/200 m ²	1/64 2%(0%)	
	52 /200 m ²	21.7 m ² /ha	17 /200 m ² 食痕:10/17 59%			25/200 m ²	6/64 12%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	27 /200 m ²	13/27 48%			32	49%・75.9・79%	0.49・0.08 (2.2)・0.04	
	17 /200 m ²	12/17 71%			35	54%・85.4・0%	0.57・0.01 (0.1)・0.08	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ケヤマハンノキ	3	1,035	2	
トドマツ	3	826		3
ミズキ	5	686	1	1
ホオノキ	2	304		
カツラ	2	287	1	
全体	52	4,349	17	9

※総BAは胸高直径断面積の総和。



稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
ヤマモミジ	8	7
サウシバ	2	2
ミズキ	2	2
アオダモ	1	1
アカシデ	1	1
全体	17	15



林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	16	0.484	54	85.4	0
スゲsp.(B)	14	0.040	18	22.3	0
クサソテツ	6	0.012	3	30.5	0
ヤマモミジ	4	0.007	2	25.8	3
スゲsp.(A)	5	0.005	4	15.4	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。

調査区 P06 は、三石ダム下流部の林道沿いに位置する針広混交林である。沢沿いの緩斜面でケヤマハンノキやトドマツが多い。林内にはシカ道が見られる。前回から本数密度は 67 本から 52 本、下枝密度は 24 本から 17 本へと減少した。下枝食痕率は 0% から 59% へと増加した。小径木 5cm 未満の密度も 34 本から 25 本へと減少した。樹皮剥ぎは 2% から 12% に増加し、樹皮剥ぎされた樹種はアオダモが多く、トドマツの角こすりも目立った。

稚樹は前回の 27 本から 17 本に減少し、食痕率は 48% から 71% へと増加した。古い食痕を含めるとほとんど稚樹で食痕が見られた。林床はクマイザサが 54% で、前回からやや増加した。可食種の現存量は前回から 0.04 から 0.08 へと増加した。P06 の稚樹や小径木の枯死の原因は密度効果だけでなく、被食状況から被食の影響も含まれており、影響が累積している状況と思われる。

日高 P07 の結果概要 地区名：HS2 静内 107 林班い 1 小班 9 月 11 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)		斜面中部	南	1	2	直近 7.9	累積 5.5	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	98 /200 m ²	36.8 m ² /ha	68 /200 m ² 食痕:51/68 75%			58 /200 m ²	0/98 0%(0%)	
	65 /200 m ²	39.5 m ² /ha	34 /200 m ² 食痕:16/34 47%			30 /200 m ²	5/65 8%(1.5%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	18 /200 m ²	18/18 100%			29	58%・28.8・80%	0.21・0.02 (2.0)・0.01	
	0 /200 m ²	0/0			25	40%・24.5・55%	0.14・0.02 (0.4)・0.03	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ミズナラ	8	3,124	3	2
サワシバ	32	1,671	22	1
オオバボダイジュ	4	1,429	1	
アオダモ	4	624	3	5
アカシデ	9	532	2	
全体	65	7,905	34	8

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
-----	-----------	-------------

稚樹なし

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	20	0.106	40	24.5	11
スゲsp.(A)	16	0.020	17	11.1	0
ヒトリシズカ	4	0.006	2	16.3	0
スゲsp.(B)	7	0.004	2	13.1	0
オオサクラソウ	7	0.002	1	16.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P07 は、静内ダム周辺の右岸側の林道沿いに位置する広葉樹林である。林道山側の急斜面でミズナラやサワシバが優占する。林内はシカ道が見られ食痕も目立つ。前回から本数密度は 98 本から 65 本、下枝密度は 68 本から 34 本へと減少した。下枝食痕率は 75%から 47%へと減少した。小径木 5cm 未満の密度も 58 本から 30 本へと減少した。樹皮剥ぎは前回確認されなかったが、今回は 8% (新規 1.5%) で見られ、樹種はアオダモが多かった。

稚樹は前回 18 本だったが、今回は全て消失した。林床はミヤコザサが 40%で、前回から 18 ポイント減少した。可食種の現存量は前回から 0.01 から 0.03 へと増加した。P07 の立木密度は極めて高く、稚樹・小径木の枯死や、ササの減少には、被陰の影響も大きいと考えられるが、SPUE は 7.9 と高く、食痕も少なくないことから、被食の影響も受けており、生存木が減少し影響が累積している状況と思われる。

日高 P08 の結果概要

地区名 HS2 静内：

260 林班い 1 小班

9 月 11 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)		斜面中部	北西	1	2	直近 8.6	累積 6.0	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	75 /200 m ²	36.6 m ² /ha	28 /200 m ²	食痕: 19/28	68%	28 /200 m ²	4/70	6%(6%)
	57 /200 m ²	37.5 m ² /ha	18 /200 m ²	食痕: 7/18	39%	17 /200 m ²	7/54	13%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	3 /200 m ²	3/3 100%		9	68% ・49.4・ 65%	0.38 ・0.04(719.3)・ 0.00		
	0 /200 m ²	0/0		8	61% ・49.7・ 65%	0.34 ・0.03(96.6)・ 0.00		

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ホオノキ	9	1,944		
ミズナラ	5	1,671	2	
ウダイカンバ	3	1,036		
シナノキ	10	725	3	3
オオバボダイジュ	3	591	1	
全体	57	7,493	18	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
-----	-----------	-------------

稚樹なし

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	20	0.317	61	49.7	13
オシダ	2	0.027	6	47.5	1
カノツメソウ	4	0.000	0	14.0	0
フッキソウ	3	0.000	0	12.3	0
アオダモ	8	0.000	0	4.3	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P08 は、静内ダム周辺の左岸側の林道沿いに位置する広葉樹林である。林道山側の緩斜面でホオノキやミズナラが優占する。林内はシカ道が見られる。前回から本数密度は 75 本から 57 本、下枝密度は 28 本から 18 本へと減少した。下枝食痕率は 68%から 39%へと減少した。小径木 5cm 未満の密度も 28 本から 17 本へと減少した。樹皮剥ぎ率は前回 6%だったが、今回は 13% (新規 0%) で、樹種はシナノキやアオダモが多かった。

稚樹は前回 3 本のみだったが、今回全て消失した。林床はミヤコザサが 61%で、前回からやや減少した。可食種の現存量は前回同様 0.01 未満だった。P08 の立木密度は比較的高く、稚樹・小径木の枯死には、被陰の影響もあると考えられるが、SPUE は 8.6 と高く、食痕も少なくないことから、被食の影響も受けており、生存木が減少し影響が累積している状況と思われる。

日高 P09 の結果概要 地区名： HS2 静内 8 林班い 4 小班 9 月 11 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)		斜面中部	北東	1	2	直近 6.9	累積 5.6	糞・シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	62 /200 m ²	28.2 m ² /ha	38 /200 m ² 食痕:27／38 71%			30 /200 m ²	0／62 0%(0%)	
	46 /200 m ²	31.8 m ² /ha	27 /200 m ² 食痕:11／27 41%			15 /200 m ²	4／46 9%(4.3%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	5 /200 m ²	5／5 100%			30	48%・34.1・50%		0.19・0.02 (5.1)・0.00
	0 /200 m ²	0／0			31	37%・27.2・10%		0.14・0.00 (0.1)・0.02

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
アカシデ	5	1,293	1	
ミズキ	3	987		
ミズナラ	2	970	1	
イタヤカエデ	4	815	1	
オオバボダイジュ	2	730	2	
全体	46	6,358	27	6

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
-----	-----------	-------------

稚樹なし

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	20	0.122	37	27.2	2
スゲsp.(B)	8	0.007	8	9.1	1
スゲsp.(A)	11	0.007	7	9.4	0
カノツメソウ	11	0.002	1	19.8	1
オオバノヨツバムグラ	4	0.002	2	11.0	1

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P09 は、シュンベツ川上流の林道沿いに位置する広葉樹林である。斜面中部の緩斜面でアカシデやミズキなど多くの樹種からなる。林内はシカ道が多い。前回から本数密度は 62 本から 46 本、下枝密度は 38 本から 27 本へと減少した。下枝食痕率は 71%から 41%へと減少した。小径木 5cm 未満の密度も 30 本から 15 本へと減少した。樹皮剥ぎ率は前回 0%だったが、今回は 9% (新規 4.3%) で、アオダモが多かった。

稚樹は前回 5 本だったが、今回は全て消失した。林床はミヤコザサが 37%で、前回からやや減少した。可食種の現存量は前回同様 0.01 未満だったが、0.02 とやや増加した。P09 の稚樹・小径木の枯死には、被陰の影響も考えられるが、SPUE は 6.9 と高く、食痕も少なくないことから、被食の影響も受けており、生存木が減少し影響が累積している状況と思われる。

日高 P10 の結果概要

地区名：HS2 静内

11 林班い 2 小班

9 月 11 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)		斜面中部	北西	1	2	直近 6.9	累積 5.6	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	74 /200 m ²	40.5 m ² /ha	41 /200 m ²	食痕:38/41	93%	41 /200 m ²	0/74	0%(0%)
	61 /200 m ²	49.4 m ² /ha	24 /200 m ²	食痕:8/24	33%	27 /200 m ²	9/61	15%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	4 /200 m ²	4/4	100%		25	79% ・52.2・ 95%	0.46・0.02 (1.1)・0.02	
	2 /200 m ²	1/2	50%		27	52% ・39.6・ 85%	0.25・0.01 (0.2)・0.03	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ミズナラ	8	4,264	2	
オオバボダイジュ	2	1,861	1	
シナノキ	5	1,561	1	
ミズキ	1	783	1	
ハリギリ	3	529		
全体	61	9,882	24	13

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
シウリザクラ	1	
サワシバ	1	1
全体	2	1

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	20	0.212	52	39.6	17
スゲsp.(B)	16	0.032	17	17.6	2
フッキソウ	13	0.007	4	14.6	0
オククルマムグラ	8	0.001	1	12.4	0
ヒトリシズカ	1	0.000	0	17.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P10 は、シュンベツ川上流の林道沿いで、P09 の約 2km 上流の広葉樹林である。斜面中部の緩斜面でミズナラやシナノキが多く見られる。林内はシカ道が見られる。前回から本数密度は 74 本から 61 本、下枝密度は 41 本から 24 本へと減少した。下枝食痕率は 93% から 33% へと減少した。小径木 5cm 未満の密度も 41 本から 27 本へと減少した。樹皮剥ぎ率は前回 0% だったが、今回は 15% (新規 0%) で、イタヤカエデやヤマモミジ、アオダモ目立った。

稚樹は前回 4 本だったが、今回は 2 本だった。林床はミヤコザサが 52% で、前回から 27 ポイント減少した。可食種の現存量は前回 0.02 だったが、0.03 とやや増加した。P10 の立木密度は比較的高く、稚樹・小径木の枯死には、被陰の影響も考えられるが、SPUE は P09 と同様に 6.9 と高く、食痕も少なくないことから被食の影響も受けており、生存木が減少し影響が累積している状況と思われる。

日高 P11 の結果概要 地区名：HS3新冠 1146 林班た小班 9 月 10 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面中部	北	1	2	直近 9.3	累積 4.5	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	55 /200 m ²	32.0 m ² /ha	33 /200 m ² 食痕: 3/33 9%			28/200 m ²	0/49 0%(0%)	
	65 /200 m ²	33.3 m ² /ha	39 /200 m ² 食痕: 6/39 15%			30/200 m ²	2/61 3%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	7 /200 m ²	6/7 86%			22	70%・52.3・ 90%		0.39・0.01 (1.5)・0.01
	3 /200 m ²	1/3 33%			17	59%・44.7・ 70%		0.30・0.02 (2.5)・0.01

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
シナノキ	3	1,153	3	
ケヤマハンノキ	2	838	2	
サワシバ	24	821	19	
トドマツ	1	616		
ウダイカンバ	1	535		
全体	65	6,669	39	2

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
イタヤカエデ	1	
ツリバナ	1	
ヤマモミジ	1	1
全体	3	1

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	20	0.270	59	44.7	0
オシダ	5	0.017	4	31.8	0
ミヤマシケシダ	7	0.006	3	16.6	0
スゲsp.(A)	1	0.002	1	22.0	0
カノツメソウ	1	0.002	1	42.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P11 は、新冠川中流の林道沿いに位置する針広混交林である。緩斜面でトドマツやシナノキなど多くの種からなる。林内にはシカ道が見られる。調査区の 38m 地点以降の範囲に作業道が造成されて消失していたため、新たに直角方向に 12m 延長して調査区を設定した。そのため、一部前回の調査木とは異なっている。前回から本数密度は 55 本から 65 本へ、下枝密度は 33 本から 39 本へと増加した。下枝食痕率は 9% から 15% へとやや増加した。小径木 5cm 未満の密度は 28 本から 30 本とほぼ同じだった。樹皮剥ぎ率は前回 0% だったが、今回は 3% (新規 0%) だった。

稚樹は前回 7 本だったが、今回は 3 本だった。林床はミヤコザサが 59% で、前回から 11 ポイント減少した。可食種の現存量は前回と同様に 0.01 だった。SPUE は 9.3 と高く、被食状況から、エゾシカによる影響を引き続き受けており、影響が累積している状況と思われる。

日高 P12 の結果概要

地区名：HS3新冠

1010 林班い 1 小班

9 月 10 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面中部	南西	1	2	直近 7.7	累積 5.0	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	70 /200 m ²	19.3 m ² /ha	50 /200 m ²	食痕:39/50	78%	49/200 m ²	0/70	0%(0%)
	58 /200 m ²	21.1 m ² /ha	30 /200 m ²	食痕:5/30	17%	38/200 m ²	0/58	0%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	55 /200 m ²	53/55	96%		33	34%・50.1・92%	0.28・0.04 (0.7)・0.06	
	14 /200 m ²	5/14	36%		27	28%・48.3・82%	0.23・0.04 (0.8)・0.06	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ケヤマハンノキ	3	2,535	1	
ミズキ	3	414	1	
イタヤカエデ	30	353	16	
アサダ	3	304	1	
ヤマモミジ	6	163	5	
全体	58	4,222	30	

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
ハシドイ	8	8
ヤマモミジ	2	2
アオダモ	1	1
イタヤカエデ	1	
サワシバ	1	1
全体	14	12

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	11	0.141	28	48.3	9
フッキソウ	14	0.025	11	19.9	0
ムカゴイラクサ	9	0.013	7	16.7	0
オシダ	3	0.012	3	25.0	0
ハエドクソウ	7	0.009	4	17.4	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P12 は、新冠川中流の林道沿いに位置する広葉樹林である。なだらかな斜面で本数密度が高く、小径木のイタヤカエデが多く見られる。林内にはシカ道が見られる。前回から本数密度は 70 本から 58 本、下枝密度は 50 本から 30 本へと減少した。下枝食痕率は 78% から 17% へと減少した。小径木 5cm 未満の密度も 49 本から 38 本へと減少した。樹皮剥ぎ率は前回同様、今回も見られなかった。

稚樹は前回 55 本だったが、今回は 14 本で古い食痕を含めるとほとんどの稚樹で食痕が見られた。林床はミヤコザサが 28% で、前回から 6 ポイント減少した。可食種の現存量は前回同様 0.06 だった。稚樹・小径木の枯死には被陰の影響も考えられるが、SPUE は 7.7 と高く、食痕も多数あることから、被食の影響も受けており、生存木が減少し、影響が累積している状況と思われる。

日高 P13 の結果概要

地区名：HS3新冠

1013 林班い 1 小班

9 月 10 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面中部	南西	1	2	直近 7.7	累積 5.0	シカ道・落角・声
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	53 /200 m ²	39.5 m ² /ha	33 /200 m ² 食痕:26／33 79%			23 /200 m ²	9／53 17%(0%)	
	35 /200 m ²	36.2 m ² /ha	19 /200 m ² 食痕:9／19 47%			7 /200 m ²	8／35 23%(5.7%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	50 /200 m ²	49／50 98%			39	63% ・34.2・ 60%	0.31 ・0.06 (1.7)・ 0.03	
	13 /200 m ²	10／13 77%			30	58% ・34.7・ 45%	0.29 ・0.06 (3.2)・ 0.02	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種／可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
サワシバ	13	3,095	6	
アオダモ	7	1,461	6	10
イタヤカエデ	6	1,089	1	
ホオノキ	2	535	2	1
ヤマモミジ	2	500	1	
全体	35	7,242	19	16

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
トドマツ	6	
ヤマモミジ	5	4
キタコブシ	3	2
ハシドイ	2	2
オニグルミ	1	1
全体	19	10

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	20	0.205	58	34.7	9
オシダ	9	0.053	13	34.1	0
トドマツ	2	0.008	2	43.0	0
コメウツギ	2	0.006	1	36.5	0
コンロンソウ	9	0.004	1	20.2	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P13 は、新冠川上流の林道沿いに位置する広葉樹林である。緩斜面でサワシバやアオダモなどが優占する。林内にはシカ道や落角が見られる。前回から本数密度は 53 本から 35 本、下枝密度は 33 本から 19 本へと減少した。下枝食痕率は 79% から 47% へと減少した。小径木 5cm 未満の密度も 23 本から 7 本へと減少した。樹皮剥ぎ率は前回の 17% から 23% (新規 5.7%) とやや増加し、アオダモやハシドイが多かった。

稚樹は前回 50 本だったが、今回は 13 本で古い食痕を含めるとトドマツ以外の多くの稚樹で食痕が見られた。林床はミヤコザサが 58% で、前回から 15 ポイント減少した。可食種の現存量は前回 0.03 に対して 0.02 とほぼ同じだった。SPUE は 7.7 と高く、食痕も多数あることから、稚樹・小径木の枯死はエゾシカによる被食が主と思われ、生存木が減少し、影響が累積している状況と思われる。

日高 P14 の結果概要

地区名：HS3新冠

1019 林班い 1 小班

9 月 12 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)		斜面中部	南	1	2	直近 6.1	累積 4.8	シカ道・骨・声
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	86 /200 m ²	47.1 m ² /ha	34 /200 m ² 食痕:2/34 6%			40/200 m ²	7/83 8%(0%)	
	68 /200 m ²	52.1 m ² /ha	35 /200 m ² 食痕:12/35 34%			26/200 m ²	14/65 22%(1.5%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	11 /200 m ²	7/11 64%			25	74%・61.9・ 95%	0.49・0.01 (0.6)・0.01	
	5 /200 m ²	2/5 40%			21	70%・77.5・ 75%	0.60・0.00 (0.1)・0.03	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ハウチワカエデ	7	461	5	
ウダイカンバ	2	984		
ミズナラ	11	3,899	4	3
シナノキ	2	24	2	
オオバボダイジュ	1	396		1
全体	68	10,426	35	20

※総BAは胸高直径断面積の総和。

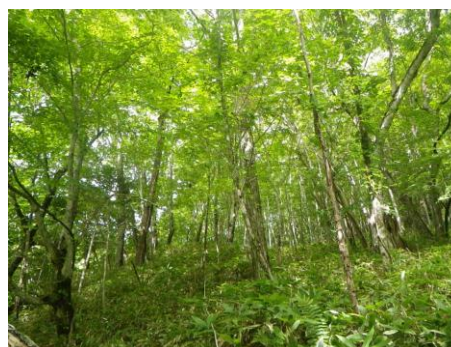
稚樹調査結果—主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
トドマツ	2	
イヌエンジュ	2	
アオダモ	1	1
サワシバ	1	
ヤマモミジ	1	1
全体	7	2

林床植生調査結果—主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.563	70	77.5	15
ミヤコザサ	4	0.018	4	34.3	1
スゲsp.(B)	8	0.004	2	15.9	0
スゲsp.(A)	5	0.003	2	13.6	0
ヤマモミジ	5	0.003	0	27.8	1

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P14 は、新冠川上流の下新冠ダム周辺の林道沿いに位置する広葉樹林である。緩斜面でミズナラやアサダなどが優占する。林内にはシカ道が見られる。前回から本数密度は 86 本から 68 本、下枝密度は 34 本から 35 本へと微増した。下枝食痕率は 6%から 34%へと増加した。小径木 5cm 未満の密度も 40 本から 26 本へと減少した。樹皮剥ぎ率は前回の 8%から 22%(新規 1.5%)と増加し、アオダモやミズナラが多かった。

稚樹は前回 11 本だったが、今回は 5 本と減少した。林床はクマイザサが 70%で、前回からやや減少した。可食種の現存量は前回 0.01 に対して 0.03 とほぼ同じだった。P14 の立木密度はかなり高く、稚樹・小径木の枯死には被陰の影響も考えられるが、SPUE は 6.1 と高く、食痕も多数あることから、被食の影響も受けており、生存木が減少し、影響が累積している状況と思われる。

日高 P15 の結果概要

地区名：HS3新冠

2174 林班い 2 小班

9 月 10 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)	斜面中部	北西	1	2	直近 4.0	累積 3.7	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	62 /200 m ²	46.4 m ² /ha	33 /200 m ²	食痕:14/33 42%	25 /200 m ²	0/61 0%(0%)	
	53 /200 m ²	51.4 m ² /ha	37 /200 m ²	食痕:0/37 0%	16 /200 m ²	6/52 12%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	7 /200 m ²	5/7 71%			19	16%・69.0・ 13%	0.16・0.04(52.3)・0.00
	2 /200 m ²	0/0			20	23%・50.9・ 54%	0.19・0.04(3.7)・0.01

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ミズナラ	4	6,321	3	
イタヤカエデ	12	1,365	5	
エゾヤマザクラ	2	753		
ダケカンバ	1	532		
サワシバ	13	475	13	1
全体	53	10,286	37	10

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
キタコブシ	1	
ニガキ	1	1
全体	2	1

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	13	0.131	23	50.9	7
オシダ	5	0.027	8	32.2	0
フッキソウ	12	0.015	6	18.3	0
コンロンソウ	4	0.006	2	23.8	0
ムカゴイラクサ	3	0.005	2	19.3	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P15 は、東川地区西部の林道沿いに位置する広葉樹林である。尾根に近い緩斜面で、ミズナラやイタヤカエデ、サワシバが多く見られる。前回から本数密度は 62 本から 53 本へ減少し、下枝密度は 33 本から 37 本へと増加した。下枝食痕率は 42%から 0%となった。小径木 5cm 未満の密度も 25 本から 16 本へと減少した。樹皮剥ぎ率は前回の 0%から 12% (新規 0%) と増加し、アオダモが多かった。

稚樹は前回 7 本だったが、今回は 2 本と減少した。林床はミヤコザサが 23%で、前回から 7 ポイント増加した。可食種の現存量は前回 0.01 未満に対して 0.01 とわずかに増加した。また調査区周辺ではエゾシカの被食によると思われるスズタケの枯れた稈が多数見られた。P15 の稚樹・小径木の枯死には被陰の影響も考えられるが、食痕の状況から被食の影響も受けており、生存木が減少し影響が累積している状況と思われる。

日高 P16 の結果概要

地区名：HS3新冠

2074 林班れ小班

9 月 12 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		尾根	北	1	2	直近 4.8	累積 3.4	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	70 /200 m ²	62.9 m ² /ha	32 /200 m ²	食痕: 8/32	25%	40/200 m ²	6/70	9%(1%)
	62 /200 m ²	68.1 m ² /ha	28 /200 m ²	食痕: 14/28	50%	33/200 m ²	4/62	6%(1%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	27 /200 m ²	4/27	15%		50	7%・32.0・0%	0.13・0.09 (5.6)・0.02	
	4 /200 m ²	3/4	75%		39	12%・35.6・0%	0.21・0.09 (1.0)・0.08	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
オヒョウ	3	3,153	1	1
カツラ	2	2,696		
ハリギリ	1	1,685		
ベニタヤ	1	1,605		
ミツデカエデ	9	1,477	2	
全体	62	13,615	28	5

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
キタコブシ	1	
シウリザクラ	1	1
ヤマモミジ	2	2
全体	4	3

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
オシダ	9	0.065	13	37.6	0
ミヤコザサ	5	0.044	12	35.6	0
モミジガサ	8	0.038	8	35.0	0
エゾノシロバナシモツケ	7	0.019	4	32.0	6
スゲsp.(A)	7	0.010	7	12.9	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P16 は、厚別川下流域の林道沿いに位置する広葉樹林である。斜面下部が馬の放牧地に隣接した急斜面で、オヒョウやカツラなど湿性タイプの広葉樹が多く見られる。林内はシカ道が多い。前回から本数密度は 70 本から 62 本へ、下枝密度は 32 本から 28 本へ減少した。下枝食痕率は 25% から 50% と増加した。小径木 5cm 未満の密度も 40 本から 33 本へと減少した。樹皮剥ぎ率は前回の 9% から 6% (新規 1%) と減少し、樹種は嗜好性の高いオヒョウ、ツリバナ、アオダモだった。

稚樹は前回 27 本だったが、今回は 4 本と大幅に減少した。林床はミヤコザサが 12% で、前回から 5 ポイント増加した。可食種の現存量は前回 0.02 に対して 0.08 と増加した。P16 の立木密度は比較的高く、稚樹・小径木の枯死には被陰の影響も考えられるが、食痕が多数見られることから被食の影響もあり、生存木が減少し影響が累積している状況と思われる。